

令和8年度 総合的な学習の時間 全体計画 江戸川区立春江小学校

校長名 小林 麻子

名称:総合的な学習の時間

学校の教育目標	進んで学ぶ子 じょうぶな子 思いやりのある子
---------	------------------------------

国が示す総合的な学習の時間の目標	
探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のおり育成することを目指す。 (1) 探究的な学習の課程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。 (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。	

学校の総合的な学習の時間の目標	
自ら学習課題を設定し、自ら考えて主体的に行動していく中で、情報を収集して整理し分析して、お互いに考えや意見を出し、認め合いながら物事を自分との関係で見つめ、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。	

育てようとする資質や能力及び態度	
知識及び技能	
第3・4学年	第5・6学年
<ul style="list-style-type: none"> ・探究課題解決に必要な内容を教科等で習得した内容から選ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の未来像と自分たちの生活との関わりが分かる。 ・地域の産業のよさと課題及びそれに携わる人々の願いが分かる。
思考力・判断力・表現力等	
第3・4学年	第5・6学年
<ul style="list-style-type: none"> ・問題状況の中から課題を発見し、解決の方法や手順を考える。 ・言語によりまとめたり分析し、まとめたり表現したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立て、必要な情報を収集して分析し、学習の仕方や進め方を振り返り、学習や生活に生かす。
学びに向かう力、人間性等	
第3・4学年	第5・6学年
<ul style="list-style-type: none"> ・異なる意見や他者の考えを受け入れ学び合う。 ・他者と協同して 課題を解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の将来を考え、夢や希望をもつ。 ・身の回りの環境とのかかわりを考えて生活する。

内容	学習対象	学習事項
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然環境とそれを守ってきた人たちの伝統 ・地域の文化や伝統とその継承に力を注ぐ人々 ・情報収集、整理、発信に関すること 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然の存在とそのよさ ・地域の文化や伝統の継承に力を注ぐ人々の思い ・タブレット端末や情報通信ネットワークなどを適切な活用
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然環境とそこに起きている環境問題 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題と自分たちの生活とのかかわり ・環境の保全と持続可能な社会の創造のための取組
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の気候や風土を生かした生活 ・食に関わる地域の農業や生産者のついで 	<ul style="list-style-type: none"> ・雪国の生活を体験と人々の生活の工夫 ・米作り体験を通じた、農家の工夫
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・実社会で働く人々の姿と自己の将来 ・働くことの意味や働く人の夢や願い ・戦争の出来事や被爆者や戦争体験者の思い 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会の創造を目指し、地域の人々と協同して進める活動や取組 ・様々な職業を知り、自身の生き方を見つめ直す ・戦争と平和を伝える取組や平和な社会の実現

学習活動	指導方法	指導体制	学習の評価
<ul style="list-style-type: none"> ・3年生は地域、4年生は環境、5年生は農業と防災、6年生はボランティア活動とキャリア教育を主とし、単元は学年で開発する。単元によって横断的に学習をおこなうものもあるが、4学年とも3学期間で年間35時間の学習活動となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の課題意識を連続発展させる支援 ・個に応じた指導の工夫 ・諸感覚を駆使する体験活動の重視 ・協働的な学習活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任外の教職員による支援体制の樹立。 ・福祉作業所など地域教育力の効果的運用。 ・ティーム・ティーチングの日常化 ・ワークショップ研修の重視 	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別学習状況を把握するための評価規準の設定。 ・個人内評価の重視。 ・指導と評価の一体化。 ・結果でなく、授業分析による学習指導の評価の重視。